

IAUD Newsletter Vol.4 第13号 (2011年12月号) 目次

1. 特集：韓国で開催された国際 UD セミナー参加報告・・・1
2. 活動報告：住空間 PJ「夢のみずうみ村」視察ワークショップ・・・7
3. 国内外 UD 動向・・・11

韓国 3 都市で開催された国際 UD セミナーに参加して 特集：川原専務理事の韓国での講演報告



UDの関心が高い韓国で、9月22日(木)と23日(金)の2日間、ソウル市とスウォン市(水原市)において「国際 UD 学術祭」が開催され、川原啓嗣 IAUD 専務理事が講演を行いました。さらに、11月7日(月)にはテジョン市(大田広域市)で開催された「2011 UD 国際セミナー」でも、再度講演を行いました。今回の Newsletter は、韓国 3 都市での講演の要約と韓国の UD 事情の一端を、川原専務理事に報告してもらっています。

IAUD の国際 UD 会議を意識

国際 UD 学術祭での講演は、主催者団体の一つであるソウル DPI(Disable Peoples' International)の招請によるものです。

韓国は 2004 年にソウルで UD の国際会議を開催しており、アジア圏においては日本に次いで UD に関心の高い国といえます。

ソウル DPI は昨年の「第 3 回国際ユニヴァーサルデザイン会議 2010 in はままつ」にもツアーを組んで参加しています。驚いたことに、今回の国際 UD 学術祭のプログラムには、「48 時間デザインマラソン」や「こども UD コンテスト」などが含まれており、明らかに IAUD の国際会議を意識した内容となっていました。

IAUD の活動が韓国における UD の普及啓発に良い意味で影響を与えていると解釈すべきでしょう。

韓国での UD 政策推進のために

9月22日(木)13時から、ソウル国立科学技術大学の100周年記念館において国際UD学術祭が開始しました。

この学術祭は、UDを政策的、積極的に導入した海外の事例と成果を通して、韓国でUD政策を推進するための課題を摸索することを目的としています。

まずは主催者であるソウルDPI会長のウィ・ムンスック氏、および韓国DPI会長チェイ・ジョンゴル氏による挨拶が行なわれました。

会場の情報保障は、日本語、英語、韓国語間の同時通訳と韓国語の字幕表示、手話が実施されました。

続いて、「IAUDの役割と課題」と題し、私の講演を行いました。

日本の高齢化率が既に23%を超え、世界に先駆けて超高齢社会となっている現状と、現在は約10%の高齢化率である韓国も、今後20年間でかつての日本以上の急速なスピードで高齢化が進み、いずれ日本と同様の超高齢社会となることを説明しました。そして、産・官・学が互いに協力連携して英知を結集し、UDに配慮した社会構築に向け着手しなければならないと述べました。

さらに、日本における最近のUD商品やサービスの事例を写真や動画で紹介しました。



次に行なわれたノルウェー青少年・家族問題総局のToril Bergerud Buene氏による講演では、ノルウェー政府のUD政策が説明されました。

2009から2013年における具体的なアクションプランなど、国家としてUDにかなり力を入れていることがうかがえました。



最後に、ソウルDPI会長のウィ氏、Buene氏と私の3人が壇上に上がり、参加者からの質問に答える形でディスカッションが行なわれました。

会場が大学キャンパスだったせいもあり、大学の教授や講師、研究者からの質問が多かったようです。聴衆には学生や教職員のほか、車椅子利用者も多くみられました。



2日目の23日(金)には、ソウルから南へ35kmに位置するスウォン市にある慶熙大学スウォンキャンパス国際会議場(写真)に会場を移して行なわれました。

前日と同様、冒頭にはソウル DPI のウィ会長、そして、地元の大学教授やデザイン団体代表の方々の挨拶がありました。

次に、2006年の京都における国際UD会議にも参加したという韓国障害者人権協会のイ・ブンジャイ会長の司会進行のもと、今度は Buene 氏が先に、私とその次に前日と同様の

講演を行ないました。

その後、日本に留学していたという研究者チュイ・リョン氏、そして成均館大学のイ・シヨンギル教授ほか数名の韓国のUD研究に関する講演が続きました。彼らの講演の中には日本の事例も多く見受けられ、日本の状況をよく研究している様子が見えられました。

最後に、2日間にわたりソウルで実施されていた48時間デザインマラソンのプレゼンテーションが行なわれました。

私達の48時間デザインマラソンと同様、表彰された学生達の晴れ晴れとした笑顔に充実感がみなぎっていたのが印象的でした。

また、この学術祭で私の講演を聴いた方から、約1か月後に開催されるテジョン市でのセミナーに招待され、再度韓国で講演することになりました。

テジョン市での2011年UD国際セミナー

ソウルから160km南方に位置する韓国中部の忠清南道にあるテジョン市(大田広域市)で、11月7日(月)に「2011年UD国際セミナー」が開催されました。

テジョン市は、まちづくりに積極的にUDを導入すべく検討している自治体です。地元の大学とも連携し、テジョンUD協議会を設置しています。

セミナー冒頭ではヨム・ホン Chol 市長自ら開会の挨拶を行ない、壇上から降りて私達講演者の席まで歩み寄り、握手を求めて感謝の言葉をかけてくれました。このような振る舞いにも、市長の熱心さがうかがえました。

セミナーのテーマは「UDのまちづくり」。私に依頼された演題も「UDにおけるまちづくりの体系的な戦略と自治体の役割」でした。事前に、日本の自治体における先進的なUD導入事例を講演の中で紹介してほしいとのリクエストを受けていたので、2010年度のUD推進委員を努めた静岡県の実例をピックアップして解説しました。

静岡県は、日本の自治体の中でもいち早くUDを県政に取り入れた、UD先進県です。幸い、「ふじのくにユニバーサルデザイン行動計画2010-2013」概要版は、韓国語でも作成されていますので、講演内容の一部として引用させていただきました。県関係諸氏には、紙面を借りて厚く御礼申し上げます。

また、筑波技術大学の山脇博紀准教授、ソウル障害者人権協会のイ・クオンヒ会長も講演を行ないました。山脇教授は、主につくば市と筑波技術大学の事例を紹介しました。イ会長は、主に障害者の立場から韓国のまちづくりにおける問題点として、事例をあげて解説しました。

例えば、イ・ミョンバク大統領がソウル市長時代に公約として行なった高架道路の撤去と河川の復元計画により、市民の憩いの場所として生まれ変わったチョングジョン（清溪川）は、海外からの観光客も多く訪れるソウルの観光スポットです。デザインの観点からいろいろな参考になる場所なのですが、車椅子利用者にとっては川岸に降りる事さえできない「バリアフルなスポット」であると指摘するなど、イ氏の講演は今後のまちづくりのあり方という点で、あらためて考えさせられました。



夜のライトアップも美しいチョングジョン

福岡市での国際 UD 会議 2012 に向けて

今回、韓国の 3 都市において UD の講演を行ないながら、いろいろな方々と意見交換をしました。日本と同様、UD について熱心に研究している人々が多くいるほか、身の回りの生活環境をより良いものに変えて行きたいと努力している行政関係者もいることがわかりました。

お会いした韓国の方々には皆一様に、2012 年 10 月に福岡市で開催される「第 4 回国際 UD 会議 2012」への関心が非常に高く、恐らく大挙して参加いただけることと期待しています。

過去の悲しい歴史の記憶を踏み越え、日本と韓国、そして中国も含めた、UD による新たな東アジア版「持続可能な共生社会」の実現へ向けて、そろそろ確かな一歩を踏み出す時期が来たとの印象を持った今回の韓国訪問でした。

韓国で見てきた UD

講演の合間に韓国で目にした UD の事例を写真と共に紹介します。



ソウル市内の地下鉄プラットフォームの表示サイン。何 m 先かが示されている。



火事の教訓によりソウル市内の地下鉄プラットホームに備え付けられた防災マスク収納設備（左）と消火器や懐中電灯（右）。



高速鉄道（KTX）始発ソウル・ヨンサン（龍山）駅コンコースの触地図（左）、公衆電話と公衆インターネットスペース（右）。韓国兵士は休暇中も携帯電話の所持を禁止されているため、公衆電話は必要だ。



ヨンサン駅にある指紋認証施錠システムを取り入れたコインロッカー（左）。同駅のタッチディスプレイ式券売機（右）は韓国語または英語で利用可能。



高速鉄道 (KTX) 駅には改札口はない。床に黄色の帯が表示されているだけ。「We Trust You!」と利用者のマナーに訴えかけている。(左)。
KTX 先頭車両 (中) と車両内の車椅子利用者用トイレ (右)。



地下鉄入り口付近に設置された障害者向けアクセスマップ (左)。エレベーターの位置やホームとの位置関係を示している。
フルスクリーン方式のホームドアが設置されている地下鉄プラットフォーム (中)。案内表示 (右) には液晶ディスプレイが多用されている。



ホームドアの手前に表示された優先席の位置を示すピクトグラム (左) と車椅子スペースの位置を示すピクトグラム (右)。



各車両の両端に作られた優先席（左）。消火栓や緊急通報装置も設置されている。優先席を示すピクトグラム（右）は日本とほぼ共通。



地下鉄プラットフォームへ降りる階段の端には自転車の車輪を乗せる溝状のスロープがあり、上げ下ろしを容易にしている。

「UD プラス」の気づきを共有

活動報告:住空間PJが異種PJと合同で視察WSを開催



「身体的、精神的に適正な負荷（刺激）を与えることで、機能低下を防ぎ向上させる」という新たなUDの在り方「UDプラス」をテーマに活動をしている住空間プロジェクトは、10月27日（木）と28日（金）に、「夢のみずうみ村 浦安デイサービスセンター」（千葉県浦安市）で視察ワークショップを開催しました。

このワークショップには、「UDプラス」の視点を共有するため、他の研究部会メンバーも参加し、それぞれの気づきを異種PJ間で共有しました。

その様子を住空間PJの小泉しおり主査に報告してもらいます。

UD先進事例の研究から見出した視点

住空間 PJ は、これまで住空間や各種施設などの先進事例視察を継続し、UD6 視点での分析とその更新を行うとともに、住空間 PJ の視点で UD 的好事例を考察してきました。

こうした活動の中から「身体的、精神的に適正な負荷（刺激）を与えることで、機能低下を防ぎ向上させる」という新たな UD の在り方「UD プラス」をテーマとして取り上げ、更なる事例調査や専門家へのヒアリングを行い、その成果を国際会議等の場で IAUD 内外に発信してきました。

「UD プラス」のテーマは、IAUD 研究部会の各 PJ 共通の横断テーマとする可能性があるのではないか？ということから、「UD プラス」の視点を共有するため、住空間以外の研究部会からも参加メンバーを募り、「夢のみずうみ村」の視察ワークショップを開催することになりました。

4つの研究部会メンバーが合同で視察



「夢のみずうみ村」は、山口県で「人生の現役養成道場」をコンセプトとするデイサービスを運営する夢のみずうみ社が、2011年7月に首都圏にはじめて開所した直営のデイサービスセンターです。

ワークショップには、衣、食、メディアと住空間の4つの研究部会から23名が参加しました。食事、送迎等の時間帯別に4グループに分かれてセンターを視察し、事前に配布したフォーマットにUDプラス視点での気づきを記録しました。

メンバーからは、「障害を持って、社会復帰への希望をわかせる仕組みがふんだんにあると感じた」「(UDプラスとしても)楽しみながらリハビリや社会への復帰の努力をしたくなる考え方が参考になった」など、多くの気づきを得ることができたという感想がありました。

その後、11月25日(金)には参加メンバーによるまとめワークショップを実施しました。

「気づきシート」を読み込みながら、「UDプラス」視点での気づきを参加メンバーで共有し、まとめていく活動を行いました。また、異なるPJから参加したメンバーの多様な視点からの気づきを共有するためのツールとして、下図のような「気づきシート」を作製しました。



気づきシート I A UD夢のみずうみ村見学会	3:強い気づき、感銘を受けた 2:やや強い気づきがあった 1:気づきがあった			
氏名	所属PJ	住空間		
場所・空間・対象	画像	コメント	利用者にとって 刺激される事柄・想定される効果	気づき度合い
全体		「お祭り感」がある彩色と装飾で構成された空間。	・アクティブに過ごせそうな「ハレの日空間」の効果で活動量がアップする	2
介護度の高い入所者向けのエリア		介護度に応じゆったり過ごす本来のデイ空間	・介護度やその日の気分に応じ、過ごし方を選べる。	2
エントランス・スケジュールボード		1日をどう過ごすか? 過ごし方は自分で決める	その日1日、何をするかは自分で決める ⇒「ぼーっとする」のも自分で決めたこと (黄色:癒しメニュー連続は注意喚起)	3
施設内通貨:ゆーめ		ギャンブル感覚で一攫千金も楽しめる施設内通貨「ユーマ」:様々な施設利用と交換可能 ・利用開始時に7000 ゆーめ付与	お金は「やりがい」や社会性=活性化につながる(計画性=認知面でも効果あり)	3

UD プラス視点で気づいた様々な仕掛け

「夢のみずうみ村」には、廊下など空間のいたるところに、クイズなど「チャレンジしたくなる仕掛け」があります。それらに挑戦していくことで、身体的には負荷になるスロープを気が付いたら楽しみながら歩いていたということになります。その結果、杖を必要としていた方が杖無しで歩けるようになったケースもある、というお話しも聞くことができました。まさに UD プラス的な施設だといえます。

歩き回りたくなる仕掛け



自分のペースで歩ける
好きな場所・椅子で休憩可能



意図的に配置された自然な勾配
折れる道:距離を感じさせない



クイズ形式の仕掛け



移動距離がわかる



1階~2階を移動させる工夫



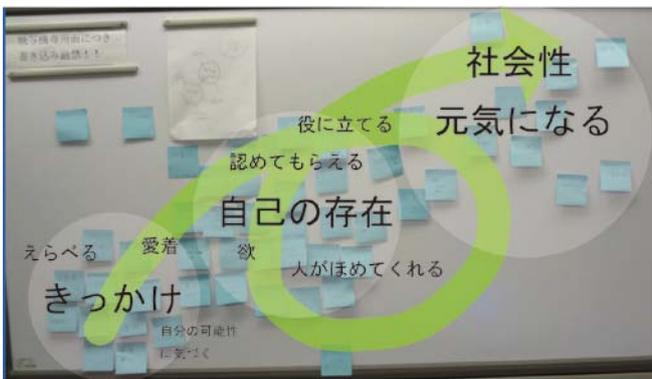
札所めぐり

また、「夢のみずうみ村」に通う方には「自分の足で歩けるようになる」「自分で出来ることは自分でできるようになる」といった目標があるのですが、そのためにただ鍛える、というだけでは辛くなってきます。

そこで「楽しく鍛えるための仕掛け」として、「歩き回りたくなる仕掛け」があり、施設内を歩き回ることにつながるモチベーション（動機付け、やる気を起こさせる内的なこころの動き）として、他の人とのコミュニケーションや施設内でのみ利用できる地域通貨の獲得があります。

この地域通貨は、色々なことにチャレンジ、すなわち鍛えることで獲得でき、マッサージや仲間との創作活動、あるいは非常に盛り上がるというギャンブル要素のあるゲームなどに使用します。地域通貨の獲得が様々な楽しみにつながり、楽しいから更に鍛える、という「より楽しく、元気になる」スパイラルを生み出すことに一役かっています。

UD プラスの新たなきづき



このようにメンバーの気づきを分析した結果、「夢のみずうみ村」では、利用者の方が日常生活の中で心身・認知機能を高めることができる「きっかけ」を用意することが大事であるという考え方＝「感動の素を用意すれば、人は動く」という理念のもと、各々の能力や日々の気分や体調に合わせた選択性を用意することを条件に、心理的・身体的仕掛けとしての「モチベーション」と物理的・

空間的仕掛けとしての「環境・機会」の両方を用意していると考えられそうです。

今後の課題

住空間 PJ では、今後も他の研究部会とも連携しながら、今回の合同ワークショップで得られた UD プラスに関する新たな気づき、考え方を深耕していきます。

そして、『モチベーション × 環境・機会（キッカケ）＝UD プラス』という仮説の検証を進め、次回の成果報告会等で UD プラスについて発信していきたいと考えています。（了）

国内外 UD 動向

ドイツ UD アワード 2012 募集

ドイツユニバーサル協議会は「ドイツ UD アワード 2012」を募集しています。このアワードでは IAUD が 2010 年度に名誉賞を受賞しています。募集の締め切りは 2011 年 12 月 20 日（火）です。受賞作品は 2012 年 4 月に開催される「ハノーヴァー国際産業見本市 2012」にて展示、表彰されます。

詳細は以下のサイトをご参照ください。↓

http://www.ud-germany.de/cms/ud/en/universal_design_award/universal_design_award_information

次号は 12 月下旬予定

特集（予定）：平成 23 年度 BF・UD 推進功労者表彰受賞 他

無断転載禁止

IAUD 情報交流センター（IAUD サロン）：

〒104-0032 東京都中央区八丁堀 2-25-9 トヨタ八丁堀ビル 4 階
電話：03-5541-5846 FAX：03-5541-5847 e-mail：salon@iaud.net